

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・3年

氏名: 久保 文哉

授業科目名	学外研修
研修先(国・地域) 滞在地	フィリピン共和国
研修期間	平成29年 9月25日 ~ 平成29年 9月30日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回、私は初めてフィリピンに行きました。また、海外に行くことも初めての経験となり、約1週間と短い期間でしたが得たものは自分の想像していた以上に多かったと思っています。研修を通じて得たものとしては2つあると自分では思っています。まず1つ目は、日本とのギャップを感じる事ができたということです。私は生まれてから20年間日本でしか生活したことがなかったので、私にとっては日本の食文化や言葉が当たり前のものでした。しかし、フィリピンでは料理の種類や味付けが全く違い、また言葉は英語とタガログ語を話す。英語がほとんど話すことができない私にとってはとても大変な環境でした。このとき初めて英語をもっと勉強しなければならないなと思いました。</p> <p>2つ目は、フィリピンで仕事をされている日本人の方々から刺激をもらったということです。三祐コンサルタンツ、JICAの方々とお会いした際に様々なお話をさせていただきました。仕事についての本音やフィリピンの現状、今後の目標など本当に有難いお話を聞くことができました。その中でも印象に残っているのがJICAのアサダさんという方のお話です。今後の道筋を明確にし情熱を忘れずに日々過ごされていて、自分に足りない部分がここのんだと実感させられました。また、農業分野に限らずフィリピンの良いところを聞いたときに、「日本は怖いです」とおっしゃいました。これには衝撃を受けました。理由を聞くと、「日本は子育てするのが大変そうです。共働きの夫婦が少ない現状で子供を保育園に預け、迎えに行く時間に遅れると延長料金を払わなければいけない。誘拐とか色んな事件に巻き込まれる危険性もある。でも、フィリピンでは家族や親戚の誰かが必ず家にいて子守をしてくれる本当に温かい国です。」と答えられました。日本は安全で美しい国だという一面があるけれど、外から見れば違う一面が見えるんだと思いました。どの国にも良い部分とそうではない部分を持っているんだろうなと感じました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修を終え、一つ心に決めたことがあります。それは情熱を持ち続けるということです。目標や夢を明確にし、それを達成するために必要なことをリストアップして、一つずつクリアしていく。フィリピンでお会いした日本人は野望に溢れ、しっかりと自分を貫いておられました。自分もそうなりたいと思います。毎日継続してモチベーションを高く保つことは決して簡単ではないですが、この機会を境に自分の人生を修正していこうと強く思います。また、帰国後に時間がたてばたつほど向上心が低くなっていくことが無いように、日々の生活にメリハリつけて行動していこうと思います。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・3年

氏名: 尾下 拳輔

授業科目名	学外研修
研修先(国・地域) 滞在地	フィリピン共和国
研修期間	平成29年 9月25日 ~ 平成29年 9月30日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私は、フィリピンに行ったことで英語の大切さを学びました。私は海外に行ったことがなく、頭で英語は大事だと理解していても、心のどこかでなんだかんだ会話できるのではないかと考えていました。しかし、現地に行ってみると、相手の言っていることから分からず困惑してしまいました。今まで英語から逃げてきたツケが回ってきたなと感じた瞬間でした。簡単な英語しか分からないので、自分の言いたいことの1割程度しか伝えきれずもどかしい思いをしました。また、相手が簡単な英語で聞いてくれているのに何度か聞き返すことも度々ありました。しかし、同じ日本人でフィリピンで働いている方々や引率の先生は流暢に英語を話していて本当にすごいなと思いました。また、海外で活躍されている日本人の方たちは皆さん自分の夢、やりたいことがはっきりしていて輝いて見えました。いい意味でガラガラしていてこんな大人になりたいと思いました。ボランティアコーディネーターになりたいと考えている方、現場と研究を両方経験して現場の技術を学会に出せるくらいにしたいと考えている方にお会いしました。お二人ともご自身の夢を楽しそうに話しておられました。自分の考えですが、こんな風に夢を追いかけられる方は充実した人生を送れるのではないかと思います。私も今回出会った夢を追いかる方たちの様に自分の人生で何か夢を見つけたいと思いました。社会人の方とお話する機会が今まであまりなかった自分にとって海外で働く人の意見を聞いたのは大きな収穫です。アジアのような途上国ではマニュアルがないから自分の経験・技術がものを言う。自分の責任が大きい分やりがいがあると話されていました。日本のような先進国では大体前例があるのでゼロから何かを作っていくことは少ないと思います。今回初めて海外を訪れて自分の知らない世界がこんなに広がっているんだと感じました。日本という慣れ親しんだ国で、過ごしていても感じることのできなかった言語や文化、人の違いを知りました。日本の常識が当たり前ではないことを知りました。大学生活に戻っても当たり前なことではないことを忘れないようにしたいと思いました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の学外研修で英語の大切さを学んだので英語を再び勉強しようと思います。次に海外に行くときはある程度のコミュニケーションをとれるようにしたいと思いました。今回は話しかけてもらうことが多かったので、自分から話しかけようと思います。また、早急に自分の夢を見つけようと思います。そして、その夢に向かって走り続ける人たちのように充実した人生を送りたいと思います。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・3年

氏名: 酒匂 弥生

授業科目名	学外研修
研修先(国・地域) 滞在地	フィリピン共和国
研修期間	平成29年 9月25日 ~ 平成29年 9月30日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>東南アジアを研修で訪れるのは二回目であったが今回も研修でしか行くことができないようなところに行くことができたと思う。NIAでミャンマーの灌漑施設はまだ十分に整っていないという話を聞いたが、実際に移動中車内から見たミャンマーの水田は草原なのではないかと思わせるような用排水路も農道もないようなものだった。日本の水田がいかに作業効率や生産性を考えて作られたものであるのかということがよく分かった。JICAでは農民の収穫、収穫後処理が生産量を減らしてしまっているという話を聞いた。具体的に言うと、日本では収穫後籾を機械で乾燥するがミャンマーでは道路に敷物を敷いて籾の乾燥を行っている。実際に道路上で籾を乾燥させているところを見かけたが、車に踏まれたり鳥に食べられたりしてしまうらしい。日本では農機があるのが当たり前であるから乾燥機の意味もとくに考えていなかった。UPLBでセンターピボットを実際に見たが、教科書で見ただけの想像していたものより大きくて、細かい作りまで確認することができた。今回現地で働く三祐コンサルタントの日本人と話す機会があったが、発展途上国でマニュアルのない仕事をするこの楽しさや責任の重さを教えてもらった。発展途上国で働くときには、JICAのように日本の政府から派遣される方法、NGOを立ち上げたり所属したりする方法、日本の会社の海外部に入る方法が思いつく。去年のミャンマー研修ではNGOとして働く日本人の方を訪問したのだが、それぞれの人の話を聞いて、将来の就職選択の参考になった。日本にいと普段見ている景色が当たり前でそこに疑問を感じることはないが、フィリピンにきて灌漑施設や水田を見て、日本はどうか疑問に思うことが多かった。これからフィリピンは開発が進んで灌漑施設も整っていくのだと思う。その前段階の今のフィリピンを見学できたことはとても貴重だったと思う。聞くのと実際に見るとでは印象が全然違う。後輩にもぜひこの学外研修フィリピンに行ってもらいたいと思う。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>フィリピン最後の日で現地の学生と交流する機会があったのだが、自分の英語がほとんど通じないことが悔しかった。現地で留学している日本の学生が生き生きと会話している様子を見て、コミュニケーションや勉強のために新学期から英語の勉強を頑張ってみようと思った。また、新学期から就職活動を始めようと思うが、海外支部があるのかどうかも見ながら考えたいと思う。</p>	